

今、中小企業の会計が大きく変わる

・・・日本でいち早く私たちが取り組みます・・・

1. はじめに

いつもご購入いただきありがとうございます。今回は会計が難しいと感じられていることについて検討をし、今後は税と会計を一旦切り離して考えて行こうという流れになっていることを述べさせていただきました。

今回は経営者のための会計を考える場合、なぜ税務会計を切り離さなければならないのかをさらに考えてみたいと思います。

2. 税に対する感情

利益が上がった個人や企業などはその稼ぎの一部を税として国や地方自治体に納めなければなりません。しかし、自分が頑張って稼いだお金が税という形で持って行ってしまうことについて、少なからず嫌悪感を抱いてしまうのは今に始まったことではありません。そんな状況の中で行われるのが節税対策です。

3. 節税対策

節税対策は、納めなくてもよい税を納めてしまうと、納税者の間で不公平が出てしまうことから、正しく税を納めて公平に税を負担するために行うものです。

しかし、節税対策の中には、単に税を納めたくないために無駄に出費が行われているものがあります。そのような節税対策をすると、利益は上がりず税は納めなくて良いのですが、程度を超えた時経営状況を悪化させてしまいます。

4. 企業本来の姿を現す会計へ

そもそも、企業は、商品やサービスを提供し社会に貢献することで利益を得る、というのが本来の姿であると考えます。そこで、税務会計を中心に行われていた会計から、企業本来の姿を表し経営に役立つ会計を考えようということになりました。

そして先ごろ（10月7日）、中小企業庁で行われていた新たな中小企業のための会計指針の検討に一区切りが付き、11月には素案が公表され、来年度からそれを運用していくことになりそうです。